教養演習Ⅱ 一戸 真子

授業概要

完全にコロナの脅威は去っておらず、また紛争も収まってはいないが、それでも人類はコロナと共存しながら、地球レベルで、未来の社会に向けて、経済競争が活発化してきている。21 世紀に入る前とは異なり、残念ながら日本がすべての分野で世界のトップランナーとは言えない中、やはり日本の強みは「ものづくり」であると言われている。日本のものづくり産業分析を行いながら、業界を理解し、日本の未来を考え、最新の産業に対する感度が高められるよう演習を通して指導する。また、活発なディスカッション等を行いながら、自らで考え、表現する力が修得できるように指導する。

授業計画

3	
第1回	日本の基幹産業は「ものづくり」
第2回	注目の業界1:電気自動車
第3回	注目の業界2:AI ロボット
第4回	注目の業界3:スマート工場
第5回	注目の業界4:ドローン
第6回	注目の業界5:植物工場
第7回	注目の業界6:手術支援ロボット
第8回	注目の業界7:セルフレジ
第9回	注目の業界8:アシストスーツ
第10回	業界地図①:原料・素材
第11回	業界地図②:部品・資材
第12回	業界地図③:機械・設備
第13回	日本地図から優良企業を探す
第14回	日本の産業の未来
第15回	まとめ
第16回	試験

到達目標

- 日本の産業構造を説明できる。
- 日本の基幹産業である「ものづくり」を説明できる。
- ・注目の業界について説明できる。
- コミュニケーションスキルが修得できる。
- プレゼンテーションスキルが修得できる。
- ライティングスキルが修得できる。

履修上の注意

特になし。積極的な関心をもっている学生の皆さんを歓迎する。

予習復習

毎回授業前に次回の単元について 1 時間程度予習をし、毎回振り返りのための復習を単元終了後 1 時間程度行うこと。

評価方法

発表点(25点)、レポート点(25点)、試験(50点)

テキスト

教科書名:ひとめでわかる産業図鑑―業界地図

著者名:イノウ編 出版社名:技術評論社

出版年:2021年(ISBN:978-4297122973))

教養演習Ⅱ 花崎 正晴

授業概要

本演習では、1990 年代から今日に至るまでの日本の経済社会のダイナミックな変遷を勉強します。このおよそ 30 年の間に、実体経済の低迷、気候変動問題の深刻化、経済社会のデジタル化の進展そしてコロナ危機など、日本の経済社会はさまざまな難問に直面し、対応を迫られてきました。このような事象の意味や背景を適切に理解することによって、将来的に社会で活躍する上での足がかりを作ることをこの演習の目的としています。基本的には、ゼミ生全員が毎回教科書の指定された箇所を前もって読んできて、事前に決められた担当のゼミ生が報告資料を作成、配布したうえで発表し、その内容について全員で議論する形で、進めていきます。したがって、演習に主体的に取り組む意欲のある学生を求めます。

授業計画

第 1 回	令和経済、波乱の幕開け	
第 2 回	激動の平成経済	
第 3 回	平成バブル崩壊と金融危機	
第 4 回	世界金融危機	
第5回	アベノミクスの挑戦と試練	
第 6 回	デジタル革命の衝撃	
第7回	気候変動と脱炭素	
第 8 回	SDGs & ESG	
第 9 回	国際的な地球温暖化対策の歩み	
第10回	再生可能エネルギーの可能性	
第11回	進む少子・高齢化	
第12回	社会保障クライシス	
第13回	ゼロ金利、デフレとの闘い	
第14回	中国台頭と米国の漂流	
第15回	グローバル経済と日本の役割	
第16回	課題レポートの提出	

到達目標

- 日本経済の特色や変遷を、適切に理解できる。
- 日本経済が直面する構造的な諸課題を理解するとともに、それらの処方箋を提示することができる。
- 報告資料を適切に作成し、効果的なプレゼンテーションを実施することができる。
- 各回のテーマについて、有意味な議論を展開することができる。

履修上の注意|

教養演習Ⅱを通して、資料の作成、発表、議論などのやり方をきちんとマスターすることが重要です。また、毎回出席も当然のこととして必要となります。さらに、適宜将来の就職活動に向けての心構えも指導する予定です。

予習•復習

発表担当者は事前にその資料を準備するとともに、全員がテキストの指定された個所を事前に読んで理解 し、各回のゼミ終了後に内容を復習することが必要です。

評価方法

担当個所の発表 40%、各回のテーマに関する意見表明 30%、課題レポート 30%。

テキスト

- 教科書名:日経文庫『シン・日本経済入門』
- 著 者 名: 藤井 彰夫
- 出版社名:日本経済新聞出版
- •出版年(ISBN): 2021年4月(ISBN 978-4-532-11436-7)本体 1,000円+税

教養演習Ⅱ 工藤 悟志

授業概要

経営学の学術論文、卒業論文を執筆するにあたり、多様な研究方法とその選択を正当化するロジックを解説します。マネジメント研究に必須となる存在論・認識論的立場に立脚した研究方法の選択について理解を深めます。そして、インタビュー、実験法と準実験法、サーベイリサーチ、エスノグラフィー、ケーススタディについてそれぞれの特徴や強みと弱みを代表的な研究例とともに紹介し、議論をして理解を深めます。

授業計画

第 1 回	マネジメント研究と研究方法論の重要性
第 2 回	存在論・認識論・研究アプローチ①
第3回	存在論・認識論・研究アプローチ②
第 4 回	マネジメント研究:研究方法論の選択
第5回	インタビュー①:理論
第6回	インタビュー②: 実践
第7回	実験法と準実験法
第 8 回	サーベイリサーチ
第 9 回	エスノグラフィー①
第10回	エスノグラフィー②
第11回	ケーススタディ①:研究方法論の再考
第12回	ケーススタディ②:ケースの選択基準と研究事例
第13回	学術論文を読む①
第14回	学術論文を読む②
第15回	学術論文を読む③
第16回	レポート提出

到達目標

- ①マネジメント研究における方法論の必要性を説明できる
- ②いくつかの研究方法を理解し、実践できる

履修上の注意

- ①遅刻・欠席はなるべくしないでください。
- ②演習という少人数の環境なので、積極的に自分の考えを発言してください。

予習・復習

- ①予習は、配布プリントの次回講義の該当箇所を読んで、レジュメ(要約とコメント)を作成してください。
- ②復習は、演習中に新たに出てきた専門用語や理論など、再度調べて理解を深めるようにしてください。

評価方法

- ①毎回提出のレジュメの内容を評価します。50%
- ②レポートの提出を評価します。50%

テキスト

テキストは指定しません。毎回、資料を配布します。

教養演習Ⅱ 広瀬 明

授業概要

経済や経営の場では、様々な問題に直面する。経済学や経営学は、そうした問題に対処するためにどうしたら良いかについて、多くの知識を蓄えるための学問である。多くの問題は、過去に発生した同種の問題にどのように対処してきたかについて学べば、解決する。その時に必要なのが、データ処理である。過去の状況と現在のそれとは大きく異なる。過去にあって成功した事例も、現在に置き換えればうまく機能しないこともある。それは何故か、そして、ならばどのようにすれば良いか、については、データ集めで情報処理をする必要がある。本演習では、その導入の部分について、考察したい。

授業計画

第 1 回 はじめに (データ処理の有効性と有用性) 第 2 回 パソコンはどのようにして動いているのか 第 3 回 基本ソフト (OS) とアプリケーションソフト 第 4 回 表計算ソフトとは何か 第 5 回 Excel でできること、できないこと 第 6 回 まずは、表を作成しよう 第 7 回 続いて、グラフを作成しよう 第 8 回 どのデータにはどのグラフが効果的か 第 9 回 相対番地と絶対番地 第 10 回 コピーを有効に使おう 第 11 回 金利計算が簡単にできる方法 第 12 回 単利と複利 第 13 回 返済金を決定するのは、金利と返済期間 第 14 回 国債の利回りの計算方法 第 15 回 70 の法則 第 16 回 試験	4	
第 3 回 基本ソフト (OS) とアプリケーションソフト 第 4 回 表計算ソフトとは何か 第 5 回 Excel でできること、できないこと 第 6 回 まずは、表を作成しよう 第 7 回 続いて、グラフを作成しよう 第 8 回 どのデータにはどのグラフが効果的か 第 9 回 相対番地と絶対番地 第 10 回 コピーを有効に使おう 第 11 回 金利計算が簡単にできる方法 第 12 回 単利と複利 第 13 回 返済金を決定するのは、金利と返済期間 第 14 回 国債の利回りの計算方法 第 15 回 70 の法則	第 1 回	はじめに(データ処理の有効性と有用性)
第 4 回 表計算ソフトとは何か第 5 回 Excel でできること、できないこと第 6 回 まずは、表を作成しよう第 7 回 続いて、グラフを作成しよう第 8 回 どのデータにはどのグラフが効果的か第 9 回 相対番地と絶対番地第 10回 コピーを有効に使おう第 11 回 金利計算が簡単にできる方法第 12 回 単利と複利第 13 回 返済金を決定するのは、金利と返済期間第 14 回 国債の利回りの計算方法第 15 回 70 の法則	第 2 回	パソコンはどのようにして動いているのか
第5回Excelでできること、できないこと第6回まずは、表を作成しよう第7回続いて、グラフを作成しよう第8回どのデータにはどのグラフが効果的か第9回相対番地と絶対番地第10回コピーを有効に使おう第11回金利計算が簡単にできる方法第12回単利と複利第13回返済金を決定するのは、金利と返済期間第14回国債の利回りの計算方法第15回70の法則	第3回	基本ソフト(OS)とアプリケーションソフト
第 6 回 まずは、表を作成しよう 第 7 回 続いて、グラフを作成しよう 第 8 回 どのデータにはどのグラフが効果的か 第 9 回 相対番地と絶対番地 第 10 回 コピーを有効に使おう 第 11 回 金利計算が簡単にできる方法 第 12 回 単利と複利 第 13 回 返済金を決定するのは、金利と返済期間 第 14 回 国債の利回りの計算方法 第 15 回 70 の法則	第 4 回	表計算ソフトとは何か
第 7 回 続いて、グラフを作成しよう 第 8 回 どのデータにはどのグラフが効果的か 第 9 回 相対番地と絶対番地 第 10 回 コピーを有効に使おう 第 11 回 金利計算が簡単にできる方法 第 12 回 単利と複利 第 13 回 返済金を決定するのは、金利と返済期間 第 14 回 国債の利回りの計算方法 第 15 回 70 の法則	第5回	Excel でできること、できないこと
第8回 どのデータにはどのグラフが効果的か 第9回 相対番地と絶対番地 第10回 コピーを有効に使おう 第11回 金利計算が簡単にできる方法 第12回 単利と複利 第13回 返済金を決定するのは、金利と返済期間 第14回 国債の利回りの計算方法 第15回 70の法則	第6回	まずは、表を作成しよう
第9回 相対番地と絶対番地 第10回 コピーを有効に使おう 第11回 金利計算が簡単にできる方法 第12回 単利と複利 第13回 返済金を決定するのは、金利と返済期間 第14回 国債の利回りの計算方法 第15回 70の法則	第7回	続いて、グラフを作成しよう
第10回 コピーを有効に使おう 第11回 金利計算が簡単にできる方法 第12回 単利と複利 第13回 返済金を決定するのは、金利と返済期間 第14回 国債の利回りの計算方法 第15回 70の法則	第8回	どのデータにはどのグラフが効果的か
第11回 金利計算が簡単にできる方法 第12回 単利と複利 第13回 返済金を決定するのは、金利と返済期間 第14回 国債の利回りの計算方法 第15回 70の法則	第9回	相対番地と絶対番地
第 12 回 単利と複利 第 13 回 返済金を決定するのは、金利と返済期間 第 14 回 国債の利回りの計算方法 第 15 回 70 の法則	第10回	コピーを有効に使おう
第13回 返済金を決定するのは、金利と返済期間 第14回 国債の利回りの計算方法 第15回 70の法則	第11回	金利計算が簡単にできる方法
第 14 回国債の利回りの計算方法第 15 回70 の法則	第12回	単利と複利
第 15 回 70 の法則	第13回	返済金を決定するのは、金利と返済期間
	第14回	国債の利回りの計算方法
第 16 回 試験	第 15 回	70 の法則
	第16回	試験

到達目標

本演習では Excel を用いた情報処理ができるかどうか、が重要なテーマである。データを示されて、何を計算しどのように計算するのか、が的確に理解できれば目標達成である。

履修上の注意

演習を進めるにあたって、次の演習内容はその前の演習内容を理解していることを前提に進めることになる。 欠席はしないようにすること。やむを得ず欠席する場合は、前の演習の内容を理解しておくこと。

予習・復習

つねにパソコンのExcelに触れておくことをお勧めする。演習で用いたもの以外のデータを処理してみることである。

評価方法

試験で、データを示し、的確にデータ処理できるかどうかを確認する。

テキスト

今のところ考えていないが、ブルーバックスあたりの新書を教科書に指定することも考えている。

教養演習Ⅱ 佐藤 正勝

授業概要

社会人基礎力養成のための講義をし、訓練をします。

(1)私たちは、どの世界で活動する場合においても、次の①から③のような思考及び実行の過程を繰り返して、目標(夢)実現に立ち向かいます。①ある特定の「目標」実現に向けて「問題点」を発見し、②その問題点を解決するために情報等を「収集」し、「分析」し、「検討」し、最も妥当な根拠のある解決策を「判断(決定)」し、③その解決策を、最も効率的効果・効果的な方法で「実行」する。

(2)以上の目的を達成するには、考える力・判断する力・実行する力等が必要ですので、佐藤正勝ゼミのゼミ訓(「なぜ?なぜ?なぜ?」、「だから何だっつうの?」など。←謎めいていますね。楽しみにしていて下さい。)を実践し、4年間を通じて、これらの力(社会人基礎力)等を養います。

授業計画

第 1 回	ガイダンス(自己紹介、授業の進め方全般、資料配付等の説明)
第 2 回	アイスブレーキング
第 3 回	社会人基礎力:佐藤正勝ゼミルール・ブックの内容の説明
第 4 回	社会人基礎力:『世の中は、全て、ルールでできている!』
第 5 回	全ての(判断の)前提には、「目的」がある!
第 6 回	基礎力①:元気・挨拶・声掛け・雑談・感謝を!
第7回	基礎力②:話ができるには!①:原則
第 8 回	基礎力③:話ができるには!②:質問されて答えられないときは?
第 9 回	基礎力④: やるべきことができなかった・失敗した!では、どうする?
第10回	基礎力⑤:文字で記憶するのは NG! 記憶は絵、図、ベン図等でする!
第11回	マンダラチャート中級
第12回	社会常識中級
第13回	仕事処理能力養成中級
第14回	私たちの未来社会とは
第15回	まとめ
第16回	期末レポートの提出

到達目標

- 1 生活と学修の規律について、さらに一段上の規律を、より適切に実行することができる。
- 2 (佐藤ゼミ独自の)マンダラ・チャートについてさらに上のレベルのものを完成させることができる。
- 3 人との対話を、スムーズに行うことができ、自分の意見を持ち、主張することができる。
- 4 毎日検定等の用語(社会常識)について、本質を踏まえた絵、図、ベン図をスムーズに書くことができる。
- 5 社会人としての仕事処理能力養成のためのSPIの問題を解くことができる。

履修上の注意|

- 1 授業には、毎回出席すること。会社員になってからの欠勤は、失職につながります。そんなことのないように、今から準備をする意味で、ゼミだけは、1日も欠席しないという1年間にして下さい。
- 2 宿題の提出及び提出期限も厳守です。なぜなら、社会人になったら、上司の指示に遅れて仕事をすることなど、ないように、今から練習しておくのが目的です。
- 3 自分の頭で考えるという作業を意識して学習して下さい。授業で説明されたことを、理解し、訓練し、実行するという一連の行動により、思考力・判断力が鍛えられます。
- 4 佐藤正勝ゼミ生は、1年の秋期に「インターンシップ I」を履修して下さい。

予習•復習

予習・復習は、宿題の実行、授業内容の徹底的な「理解・訓練・実行」を徹底して下さい。これらのための 学習時間は、90分の授業 1回につき、合計 4時間とすることが、文科省の基準です。

評価方法

期末レポートへの配点が40%、<u>宿題提出・発表の有無(注)</u>、その内容の良しあし等への配点等が60%です。 (注)「宿題の提出・発表」は、基礎演習の単位を取得するための最重要事項です。

テキスト

・教科書名:なし(授業で独自資料を配布します)

教養演習Ⅱ 篠原 淳

授業概要

本演習では、大学で学ぶ目標をしっかり持つことなど、今後の就学に必要なスキルを修得することを目標としている。自分で自分の課題を見つけ、それについて考え、解決に向けて進む意欲を持つことが重要となる。 経営学全般に関して必要なアプローチを容易にする能力を養うことで関連する様々な科目について基礎的な考え方を習得することができるように指導する。

授業計画

4	
第 1 回	本演習の進め方や評価方法
第 2 回	新聞や雑誌の読み方と使い方
第3回	専門的な文章の読解力の向上①
第 4 回	専門的な文章の読解力の向上②
第5回	専門的な文章の読解力の向上③
第 6 回	専門的な文章の読解力の向上④
第7回	専門的な文章の読解力の向上⑤
第 8 回	文章の要約力とレジュメの作成①
第 9 回	文章の要約力とレジュメの作成②
第10回	文章の要約力とレジュメの作成③
第11回	各自のテーマによる調査発表と討論①
第12回	各自のテーマによる調査発表と討論②
第13回	各自のテーマによる調査発表と討論③
第14回	各自のテーマによる調査発表と討論④
第15回	各自のテーマによる調査発表と討論⑤
第16回	まとめ(レポート提出)

到達目標

- ・豊かな人間性を備えた企業人になるために、幅広い教養を身につけることができる。
- 上記を念頭に置いた上で会計学の基礎的考え方を向上させ、より高度な学習へと進める能力を養うことができる。

履修上の注意

- 毎回必ず出席してほしい。
- ・ 演習は参加型授業なので、積極的に、発言や議論をしてほしい。
- ・就職試験に関する指導(ニュース検定試験などの実施)を行う。

予習・復習

- 配布資料を事前に目を通しておくこと
- 発表や講義の要点をまとめること
- 数回分の課題レポートを提出してもらう。

評価方法

レジュメの作成(30%)と発表(30%)、課題レポート(30%)、ゼミでの積極性(10%)などを総合的に評価する。

テキスト

- ・ 開講時に指示する。
- ・必要に応じて、資料を配布する。

教養演習Ⅱ 秋場 勝彦

授業概要

情報であられかえった社会で暮らす私たちは、自らが必要な情報を探し出すための能力を身につけることが求められている。また、コンピューター、特にパーソナルコンピューター(PC)を読み書きの能力(リテラシー)と同等に使いこなす能力が求められている。本演習では、情報リテラシーの基礎(特に PowerPoint によるプレゼンテーション能力)が身に付くよう指導すると同時に、調べる技術が身に付くよう指導する。

授業計画

第 1 回	ガイダンス 授業概要と評価方法
第 2 回	履修計画を立てる 時間割表の作成
第3回	PC で文字入力 タッチタイピング
第4回	文章作成 段落を作る
第5回	ノートの取り方 参照と引用
第6回	紙の新聞を読む 時間がないときの読み方と時間があるときの読み方の実践
第7回	調べ学習をはじめる。テーマの決定
第8回	Google で調べる 見当をつける
第9回	国立国会図書館(NDL)のデータベース(DB)を活用する
第10回	新聞 DB を活用する
第11回	プレゼンテーションとは 相手を動かすこと
第12回	事前準備 ワークシートを使ったストーリーの組み立て
第13回	資料(スライド)の作成 PowerPoint の機能を学ぶ
第14回	発表の準備 リハーサルの重要性を理解する
第15回	PowerPoint によるプレゼンテーションの実施
第16回	

到達目標

- 自らが必要な情報を探し出すことができる。
- 相手を動かす説得的なプレゼンテーションができる。

履修上の注意

この授業は、PBL(Project Based Learning)を積極的に用い、学生間での意見交換を重視し参加型の演習を行う。また、通常の学内教室以外で授業(学外授業)を実施する場合がある。なお、遅刻3回で欠席1回分にカウントする。授業において特別講師等を外部から招聘する場合がある。

予習•復習

タッチタイピングの練習を事前にすること。講義で学習した内容を講義後にまとめる(保存しておく)こと。

評価方法

プレゼンテーション 100%で評価する。また、毎回出席を取る。

テキスト

特に指定はしないが、その都度推奨図書や参考図書を紹介し、その他必要に応じて、HP 等からのデータ引用を行う。

教養演習Ⅱ 松原 優

授業概要

この演習では、「経営学とはなんだろうか」ということの基礎の基礎を理解することを目的に指導します。皆さんがこれから学ぶ「経営学」はとても大きな範囲に広がる学問です。その中でも、どんなことを専門に学んでいきたいのかを考えていく上で、経営学に対する基本的な理解が必要です。そこで、経営学の基本的な内容を解説する資料を使いながら、参加者同士で議論し、経営学への理解を深めていく時間にしていこうと考えています。後半ではその中でも松原の専門でもあるマーケティングについて触れていきます。また、演習内での発表、ディスカッションを通じてプレゼンテーションのスキルや人と議論するスキルも学んでいきます。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション
第2回	企業経営の全体像①
第3回	企業経営の全体像②
第4回	企業経営の全体像③
第5回	経営学の全体像①
第6回	経営学の全体像②
第7回	経営学の全体像③
第8回	マーケティング発想の経営①
第9回	マーケティング発想の経営②
第10回	マーケティング発想の経営③
第11回	マーケティング論の成り立ち①
第12回	マーケティング論の成り立ち②
第13回	マーケティングの基本概念①
第14回	マーケティングの基本概念②
第15回	まとめ
第16回	レポートの提出

到達目標

本演習は、以下の2点を到達目標とします。

- (1)「経営学とはどんな学問か」を経営学が専門ではない他者に説明できる。
- (2) 資料の要点をまとめて発表し、それについて他者と建設的な議論ができる。

履修上の注意

- この演習は松原も含め参加者全員で議論し、理解を深め合います。毎回必ず出席してください。やむを得ず 欠席(または遅刻)する場合は、必ず松原まで連絡をしてください。
- シラバスの内容は、参加者の人数や進捗状況に応じて調整・変更されることがあります。
- そのほか、履修をする上で気になることがあれば、松原まで遠慮なく連絡をください。

予習・復習

予習:次回演習で扱う資料を読み、感想や気になったことをまとめる。発表担当者は発表資料を作成する。 復習:演習で扱った内容を、家族や経営学を専門としていない他の人に説明してみる。

評価方法

発表(40%)、ディスカッションへの参加(30%)、最終レポート(30%)で評価します。

テキスト

- 教科書名:1からの経営学(第3版)
- 著 者 名:加護野忠男•吉村典久(編著)
- 出版社名: 碩学舎
- 出版年(ISBN): 978-4-502-37521-7
- 参考図書①:1からのマーケティング(第4版)
- 著 者 名:石井淳蔵 廣田章光 清水信年(編著)
- 出版社名:碩学舎
- 出版年(ISBN): 978-4-502-32771-1

教養演習Ⅱ 森 雅俊

授業概要

大学に慣れて 1 年秋季に入り。これからの大学で学ぶべき、社会や企業や情報技術の知識を身に付けながら、自分が学ぶべきことを考えます。また、この大学には、データサイエンス科目群があり、私はこの科目を担当していますので、興味のある学生向けに、ITC や AI (人工知能)の勉学に必要な知識、技能など基本となることを座学と演習で学びます。「演習」(ゼミ、ゼミナール)というのは大学で初めて登場する授業形式です。学生が自ら学習活動を行う授業になります。グループ学習を取り入れて、学生には、それぞれ発表する機会を作ります。課題提出、発表などを楽しく行って行きます。(PC 演習室を使用する予定です)

授業計画

,	<u></u>
第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	自己紹介 (自分で説明する資料を作成してくる)
第 3 回	大学生活で何を得たいかを考える
第 4 回	ITC(情報技術)に関する情報収集(書籍)…学内図書館、文献ネット検索
第 5 回	テーマの決め方と情報収集の方法
第 6 回	レポートの書き方
第7回	最近の ITC における注目のテーマを新聞、雑誌、書籍、インターネットから選び発表するー1
第 8 回	最近、ITC や AI のテーマを新聞、雑誌、書籍インターネットなどから選び発表するー2
第 9 回	Amazon AWS のクラウドコンピューティングの学習―1
第10回	Amazon AWS のクラウドコンピューティングの学習―2
第11回	ITC(情報通信技術)を使った新しいビジネスを調べる
第12回	情報通信技術を使った新しいビジネス事例を調査する
第13回	AI(人工知能)各自が選択した新しいビジネス事例をレポートにまとめる
第14回	新しいビジネスモデルについて発表する
第15回	グループワークとして、AI を使ったビジネスモデルを考える
第16回	グループ毎に発表し、質疑応答する

到達目標

本演習の目的は、以下の通りです。

- 1. 大学生として大学で学ぶ意味や目的を考え、行動できる。
- 2. 学習する基礎となる思考力、情報取集力、読解力、記述力、プレゼンテーション能力を高める。
- 3. インターネット、新聞、雑誌、書籍などから情報を収集し、情報を読みこなすことによって、経済や会社がどのような原理や原則で動いているか、人はどう判断するかなどについて知る能力を蓄えることができる。
- 4. ITC(情報通信技術)を活用して生活や仕事に生かせる能力を身に着けることができる。

履修上の注意

- 1)病気などの場合を除いて、毎回欠かさず出席してください。欠席の場合は、メールで事前に連絡してください。遅刻の場合は理由を説明してください。
- 2) 演習のメンバーの意見を理解し、それに対して自分の考えを述べられるように心掛けてください。
- 3) パソコンの Word, Excel, PowerPoint, メールを使用する。

予習・復習

- 事前に配布された資料はよく読んで理解すること。
- ・NHK 高校講座「政治経済」「数学Ⅱ」を事前に学習することが望ましい。

評価方法

小テスト、レポート、発表等への配点が80%、授業での発言、貢献等の積極性が 20%の配点です。

テキフト

テキストは使用せず、適宜講義資料、新聞記事、雑誌記事などを配布します。

教養演習Ⅱ 村田 嘉弘

授業概要

本学部のデータサイエンス科目群には、これからの情報社会において必要な知識・技能を修得するための科目が揃っていますが、科目として提供されていない分野があります。それは情報セキュリティ分野です。DX(Digital Transformation)やSociety5.0などにより変革された先端情報社会を安心安全な状態で過ごすには、情報セキュリティの知識は必要不可欠です。

そこで、この教養演習Ⅱでは、将来の進路に関わらず情報セキュリティを体系的に学びたい方向けに、教科書や資料を輪読する方式で、インターネットの仕組みと情報セキュリティについての知識を提供いたします。

授業計画

,	
第 1 回	はじめに(教養演習Ⅱの目標と進め方:情報セキュリティとは)• 自己紹介
第2回	セキュリティの概念と対策の方針①(情報セキュリティア要素・ガイドライン・リスク)
第3回	セキュリティの概念と対策の方針②(情報資産・脅威の種類・脆弱性・人為的不正)
第4回	サイバー攻撃の攻撃者
第5回	マルウェア
第6回	攻撃の手順・標的型攻撃
第7回	暗号化とハッシュ化
第8回	パスワードを狙った攻撃と防御
第9回	インターネットの仕組み①(通信ネットワーク)
第10回	インターネットの仕組み②(通信プロトコル、FW・IPS・IDS、DMZ)
第11回	Web サービスの仕組み①(HTML 文書、Web サーバとクライアント)
第12回	Web サービスの仕組み②(HTTP、Web アプリケーション)
第13回	Web ブラウザに対する攻撃と防御①(ドライブバイダウンロード、クリックジャッキング)
第14回	Web ブラウザに対する攻撃と防御②(XSS)
第 15 回	Web ブラウザに対する攻撃と防御③(HTTP ヘッダインジェクション)
第16回	まとめ

到達目標

- 情報社会においてはどのようなリスクがあるかを理解できる。
- インターネットの仕組みを理解できる。
- 情報セキュリティ対策として具体的にどのようなことを行えばよいのかを理解できる。

履修上の注意

コンピューターに関し一定の知識を求められるので、コンピューターに関する何かの科目を履修済みか履修中である方が好ましいです。

予習•復習

予習:教科書や配布プリントの次回の内容に目を通しておいてください。

発表者は、内容の説明ができるように準備しておいてください。

復習:演習で学んだ内容を復習しましょう。

評価方法

発表態度(40%)・期末レポート(60%)に基づき評価します。合計 100 点のうち 51 点以上を取れば合格となります。ただし、出席回数が 10 回に満たない人は成績評価できませんので注意してください。

テキスト

- 教科書名:『図解即戦力 情報セキュリティの技術と対策がこれ1冊でしっかりわかる教科書』
- 著 者 名:中村行宏•若尾靖和•林静香
- 出版社名:技術評論社
- 出版年(ISBN): 2021年 978-4-297-12106-8

必要に応じてプリントを配布します。

教養演習Ⅱ 大塚 浩記

授業概要

1年次の教養演習は、2、3、4年次と徐々に専門的な内容に進んでゆく最初の段階の演習である。「演習」とは、何かのテーマについて教員から講義を受けて理解して終わるものではなく、学生自らが何らかの目的やテーマに対して、何かの行動を起こして初めて成り立つものであると考えている。そこで、教養演習Ⅱでは学生のプレゼンテーションを前提とした演習を行う。その際の題材は、例年、学生が選択した興味関心のある事項としているが、話し合いの上。統一的なものにすることもある。また、就職に係わる情報は常に意識してもらうように心掛ける。この点で、上記とは別に時事問題に関する新聞記事等を使用した演習を行うこともある。

授業計画

第1回	演習での姿勢とレジュメの作成方法
第2回	テーマの選択と資料収集の方法
第3回	時事問題(夏季休業中の出来事など)を考える①
第4回	1 回目のテーマに基づくプレゼンテーション(第1 グループ)
第5回	1 回目のテーマに基づくプレゼンテーション(第2グループ)
第6回	1 回目のプレゼンに関係したその続きのテーマの検討
第7回	時事問題(その時点での出来事(新聞記事等))を考える②
第8回	2回目のテーマに基づくプレゼンテーション(第15兆-プ)
第9回	2回目のテーマに基づくプレゼンテーション(第2グループ)
第10回	時事問題(その時点での出来事(新聞記事等))を考える③
第11回	3回目のテーマに基づくプレゼンテーション(第15兆-プ)
第12回	3回目のテーマに基づくプレゼンテーション(第2グループ)
第13回	課題レポートの作成についての説明(章立てと結論など)
	(可能であれば「パワーポイント」資料の作成を含む)
第14回	提出するレポートの途中経過の報告
第15回	修正したレポートの内容検討(と「パワーポイント」を使用したプレゼン)
第16回	定期試験(または定期試験に代わるレポート)
※ 人	数等により進度と内容は随時調整します。

到達目標

• プレゼン用のレジュメを作成でき、それに基づいた質疑応答ができる

履修上の注意

- 人数が少ない場合には、会計ないし経営に関する文献の輪読やレポートを交える。
- ・講義ではなく演習なので、聞くだけの内容を考えていない。課題やグループワークも含めて受講者が積極的 に発言等をしてもらう。
- ・就職活動における「教養」は、上記のような時事についての理解のみならず、適性試験(言語・非言語)という形式で問われることが多いため、適宜、そちらも指導する。
- ・全員参加での課外授業を実施する場合がある(他学年・他ゼミと合同のこともある)。

予習・復習

毎回ではないが、事前に下調べを行い、発表のためのレジュメを作成してくる。 プレゼン後にレポート提出のための修正を行う。

評価方法

平常点45%・定期試験(または定期試験に代わるレポート)55%程度で評価する。 なお、既定の出席回数に満たない場合には、原則として単位を認定しない

テキスト

ゼミ生が選ぶテーマによっては使用するかもしれないが、特に使用しない予定。

教養演習Ⅱ 張 英莉

授業概要

本演習の目的は、教養演習 I と同様に、1 年生の基礎学力の向上と大学生として必要な知識の蓄積にある。 発表、プレゼンテーション、共同研究を通して、文献の調べ方、報告内容のまとめ方、レジュメの作り方、発 表時の言葉遣いなどをマスターし、思考力、表現力、協調性、コミュニケーション能力の向上を目指す。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション(授業内容、授業方法、評価方法などの説明)
第 2 回	春期を振り返る:何が身につき、何が不足しているのか
第3回	個別テーマ:目標設定:大学でどんなことを学び、将来どんな仕事をしたいのか。
第 4 回	統一テーマ:教養として知っておきたい経済理論①「景気」の基本を学ぶ
第5回	統一テーマ:教養として知っておきたい経済理論②貧困・格差問題とどう向き合うか
第 6 回	統一テーマ:教養として知っておきたい経済理論③働き方と雇用問題
第7回	統一テーマ:教養として知っておきたい経済理論④人口減少・高齢化問題
第 8 回	統一テーマ:教養として知っておきたい経済理論⑤経済学からみた社会保障
第 9 回	統一テーマ:教養として知っておきたい経済理論⑥国際経済の見方
第10回	統一テーマ:教養として知っておきたい経済理論⑦環境と経済の関係を学ぶ
第11回	グループ研究:キャッシュレス社会の利点と課題①
第12回	グループ研究:キャッシュレス社会の利点と課題②
第13回	個別テーマ:プレゼンテーション(テーマ・題材が自由)
第14回	個別テーマ:プレゼンテーション(テーマ・題材が自由)
第15回	個別テーマ:プレゼンテーション(テーマ・題材が自由)
第16回	期末試験

到達目標

- ① 基礎学力の向上を目指す。
- ② テキストの内容を理解し、要点をまとめ、発表できるようになる。
- ③ 経済学・経営学の基礎知識を身につける。

履修上の注意

無断欠席・遅刻はしないこと、議論に積極的に参加することを求めます。

予習・復習

与えられた課題の発表について、しっかりと準備してください。

評価方法

授業態度(積極性、発表内容)60%、期末試験(40%)を総合して評価する。

テキスト

必要に応じてプリントを配布する。

教養演習Ⅱ 藤井 大輔

授業概要

「教養演習 I 」を受けて、社会に出たあとにも必要とされる、主体性、コミュニケーション能力、情報収集力、課題発見力(総称して「社会人基礎力」)などをさらに伸ばすことを目的としたアクティブ・ラーニングを実践する。PBL(Project-Based Learning)形式のうち、プレゼンテーション(パワーポイント)を通じた問題解決手法の提案スキルを育成する。プレゼンテーションを通じた問題解決手法に取り上げる題材は、学生が興味関心のある社会的な時事問題を中心とした事柄を対象とする。

授業計画

<i>;</i>	
第 1 回	オリエンテーション
第2回	(第 1 巡)プレゼンテーションを通じた問題解決手法に取り上げる題材の選定、グループ分け
第3回	(第1巡)グループでの討議と資料収集
第 4 回	(第1巡)グループでの討議とプレゼンテーション資料作成
第5回	(第1巡)プレゼンテーション(前半グループ)
第 6 回	(第1巡)プレゼンテーション(後半グループ)
第7回	(第1巡)ふりかえり
第8回	(第2巡)プレゼンテーションを通じた問題解決手法に取り上げる題材の選定、グループ分け
第9回	(第2巡)グループでの討議と資料の収集・作成
第10回	(第2巡)プレゼンテーション(前半グループ)
第11回	(第2巡)プレゼンテーション(後半グループ)
第12回	(第3巡)プレゼンテーションを通じた問題解決手法に取り上げる題材の選定、グループ分け
第13回	(第3巡)グループでの討議と資料の収集・作成
第14回	(第3巡) プレゼンテーション (前半グループ)
第15回	(第3巡) プレゼンテーション(後半グループ)
第16回	ふりかえり

到達目標

- (1) 自分から意欲的に物事に取り組むことができる
- (2) 自分の意見を論理的に人に伝えることができる
- (3) 課題を自ら発見し、チームで協働することで解決ができる
- (4) 情報を収集・整理・分析し、問題解決に結びつけることができる
- (5) プレゼンテーション資料を作成できる

履修上の注意

この演習の目的は、大学で学ぶための目標をしっかり持ち、ジェネリックスキルを習得することにある。受け身の「座学形式の講義」ではなく、学生が自ら参加し、議論しながら考える能力を伸ばしていくことを最も重視する。事前連絡なしの欠席を厳禁とし、疾病・負傷等による欠席は、必ず授業開始前に連絡する。

予習・復習

毎回の授業の中で、次回までに進めておくべき授業外学習(予習・復習)を指示する。授業外学習はグループで発表する準備(打ち合わせ)が主で、グループ内での打ち合わせ時間調整も必要である。学習に取り組む時間の目安は1回あたり合計120分程度である。

評価方法

演習への取り組み姿勢(25%)、3 つの発表(各 25%)で総合的に評価する。ただし、出席回数が 10 回に満たない場合は成績評価されない。

テキスト

指定しない

教養演習Ⅱ 反田 和成

授業概要

本演習では、受講生には 2~3 名のチームを組んでもらい、事例研究に対するグループディスカッションや グローバル企業における経営分析のプレゼンテーションなど、自分で考えて発言する機会を多く設けることで 知識の定着に努めると共に、会社や社会を担って立つ人材を育成することを目的とする。

また、新聞、雑誌などの教材によって経済・経営の基礎を学ぶことで、社会人になった後でも活用できるよう指導する。さらに、学外授業で実践的な経営手法を体感することで、現実の経営事象を理解する力を身に付けることを目指している。

授業計画

,	
第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	プレゼンテーションとは何か、関心のあるグローバル企業の分析項目
第 3 回	プレゼンテーション成功の秘訣
第 4 回	プレゼンテーションの課題に関するレポートの発表と討議①
第5回	プレゼンテーションの課題に関するレポートの発表と討議②
第6回	プレゼンテーションの課題に関するレポートの発表と討議③
第7回	プレゼンテーションの課題に関するレポートの発表と討議④
第8回	プレゼンテーションの課題に関するレポートの発表と討議⑤
第9回	経済新聞、ビジネス雑誌の読み方
第10回	経済新聞、ビジネス雑誌のトピックをレポートにまとめる
第 11 回	学外授業
第12回	学外授業に関するレポートと討議
第13回	グロバール企業の分析に対するプレゼンテーションと討議
第14回	グロバール企業の分析に対する修正版プレゼンテーションと討議
第15回	グロバール企業の分析に対する最終プレゼンテーション
第16回	定期試験

到達目標

- 大学生としての基礎力である「書く、伝える、話す」を修得することができる。
- ・問題、課題を抽出し解決する能力を身につけることができる。
- ・大企業2社の経営内容を比較分析し、パワーポイント資料にまとめて発表することで、企業の分析能力と プレゼンテーション力を修得することができる。
- プレゼンテーションやレポートの発表や質疑応答を通じて、ファシリテータ―としてのノウハウを身に つけることができる。

履修上の注意

- ・問題意識を持って質問する、或いはグループワークにおいて、積極的に発言して議論すること。
- 予習、復習をきちんと行い、毎回出席すること。
- ・学外活動を行う予定がある。
- プレゼンテーションやレポートの発表者以外の学生は質問或いは感想を述べるなど、必ず発言すること。

予習・復習

- 事前に配布された資料はよく読んで理解すること。
- ・授業中に指示されたレポートは必ず提出すること。
- 毎回授業後は復習することで、理解を深めること。

評価方法

- ・授業への参加意欲(20%)、課題提出(30%)、定期試験(50%)で総合評価します。
- 授業態度が不良の場合は「不可」とします。

テキスト

・テキストは使用せず、適宜講義資料、新聞記事、雑誌記事などを配布します。

教養演習Ⅱ 福永 肇

授業概要

社会科学を学ぶ学生として最低限必要な「現代社会」、「経済経営」への基礎的知識と考え方を指導します。 授業の内容として現在は以下を授業計画にしています。しかし詳細はこの演習を履修登録した受講生の関心や 研究希望の分野、学習能力を理解した後に決めます(したがって変更になる可能性があります)。

この授業は座学形式の「講義」ではなく、学生が自ら参加し、議論しながら考える能力を伸ばしていく「演習」です。授業への主体的かつ積極的な姿勢が要求されます。

授業計画

,	Y
第 1 回	授業ガイダンス 授業の内容と課題「新聞記事のスクラップ・ブック(+コメント)」の説明
	等
第 2 回	自己紹介(与えられた時間内で初めての人に自分を紹介し、アピールする訓練)
第 3 回	基礎数字①:(日本と世界の)人口、面積、GDP、国連予算分担金、ODA、軍事費
第 4 回	基礎数字②:日本の人口動態:少子化・高齢化・人口減少・生産年齢人口の激減
第5回	複利計算の暗算法(Rule of 72)
第6回	「新聞記事のスクラップ・ブック(+コメント)」の発表と提出①
第7回	英語①:専門用語(経済用語、会計用語等)と英単語。
第 8 回	英語②:日本と外国との位取り(数字4567890123を日本はどう読むか、英語ではどうか)
第 9 回	お金を考える①:ライフステージとお金の効用
第 10 回	お金を考える②:お金をいくら稼ぐか
第11回	お金を考える③:金の正しい使用方法
第12回	お金を考える④:お金を貯める
第13回	「新聞記事のスクラップ・ブック(+コメント)」の発表と提出②
第14回	お金を考える⑤: お金を増やす
第15回	お金を考える⑥: お金を貸す、あげる。
第16回	総括。

到達目標

- ① 経済経営学部に学ぶ学生として最低限必要な「経済経営数値」「英語での専門用語」への基礎的知識を身につけることが出来る。
- ② テーマ「お金を考える」を通じて、物事に対する自分の考えを整理整頓し、思考方法を修得出来る。

履修上の注意

- ・この演習では「新聞記事のスクラップ・ブック(+コメント)」が課されます。「新聞記事のスクラップ・ブック(+コメント)」については、「教養演習 I (福永肇)」のシラバスを参照してください。
- ・授業の進捗状況、受講生の理解度、関心度に応じてシラバスの授業計画は変更する場合があります。

予習・復習

- ① 教員から指示された次回授業への準備(事前に調べておくことなど)。
- ② 「新聞記事のスクラップ・ブック+コメント」の作成と発表準備

評価方法

新聞スクラップ・ブックの発表と提出(30%×2)、ゼミでの毎回の議論への貢献(40%)を予定している。 詳細は授業で説明します。

なお、毎回の発表に対してはフロアの学生(発表者以外の学生)による評価が行われるが、これは発表した学生自分を成長させるための参考データとし、成績評価では勘案しない。

テキスト

テキストは授業時に紹介する。資料、参考資料は配布する。

教養演習Ⅱ 文 智彦

授業概要

演習の課題は、大学で学ぶ目標をしっかり持つこと、学ぶ楽しさを知ること、及び、読むこと、調べること、書くこと、報告することなど今後の就学に必要なスキルを修得することにある。この演習に参加することで、学ぶことの意味をそれぞれに考え、有意義な大学生活が過ごせるようになり、自分の将来像を描けるようになって欲しい。

授業計画

第1回	自己紹介の文章を作成し報告する。 履修計画を立てる。
第2回	本演習の概要
第3回	大学に入って何を学びたいかを考える。
第4回	文献を読もう
第5回	文献を読もう
第6回	文献を要約しよう
第7回	文献を要約しよう
第8回	大学でこれから学びたいと思う課題について、自分の意見をまとめる
第9回	大学でこれから学びたいと思う課題について、自分の意見をまとめる
第10回	自分の適性を知り、将来の進路について考える
第11回	自分の適性を知り、将来の進路について考える
第12回	プレゼンテーション資料の作成
第13回	プレゼンテーション資料の作成
第14回	プレゼンテーション
第15回	プレゼンテーション
第16回	振り返り

到達目標

- 自分の課題について調べ、意見をまとめ、表現することができる。
- 政治や経済の時事問題が企業人・社会人にとって不可欠の問題であることを知ることができる。
- 大学での学び方を体得することができる。
- ・自分の将来について考えることができる。

履修上の注意

1年次の学生は全員履修である。この演習の目的は、大学で学ぶための目標をしっかり持つことにある。このため、よく調べて自分の意見をまとめ、授業時間内には仲間同士で積極的に議論して欲しい。

予習・復習

予習・復習は積極的に行い、授業中に指示された課題は必ず提出すること。

評価方法

授業への取組み (30%)、課題の提出状況 (30%)、レポートまたは試験 (40%) により総合的に評価する

テキスト

指定しない